



廃校活用推進イベント事例発表

七会町民センター アツマーレ



茨城県城里町

株式会社 フットボールクラブ水戸ホーリーホック

体育館

水戸ホーリーホック
クラブハウス

町民センター

天然芝グラウンド 2面

1. 町の概要

城里町は、茨城県の北西部に位置する人口約2万人の町です。平成17年2月に旧常北町、旧桂村、旧七会村が合併して誕生しました。

町の東部を流れる那珂川沿いに平坦な土地が広がり、川に並行する国道123号沿いに多くの住民が暮らしています。中西部には八溝山系の標高200メートル前後の山が連なっていて、町の総面積の約6割を森林が占めています。



年間平均気温は13.4度で、東京に比べると2～3度低いですが、降雪は年に数回程度で、比較的過ごしやすい気候です。

2. 施設の位置付け

「七会町民センターアツマーレ」は、平成27年3月に廃校になった、旧七会中学校を利活用し、地域の核となる支所・公民館機能とバーベキュー施設を一箇所に集約した複合施設です。

また、アツマーレの特色として、施設の一部をプロサッカーチーム「水戸ホーリーホック」がクラブハウスとして利用しており、プロサッカーチームが廃校を利用したクラブ運営は日本初の試みとしても注目されています。

今後、「七会町民センターアツマーレ」は、「水戸ホーリーホック」と連携し、スポーツを通し地域の活性化に貢献するとともに、文化・スポーツ振興の拠点施設として利活用を図っていきます。

3. 施設の概要

【所 在】

- ・ 東茨城郡城里町大字小勝2268-3

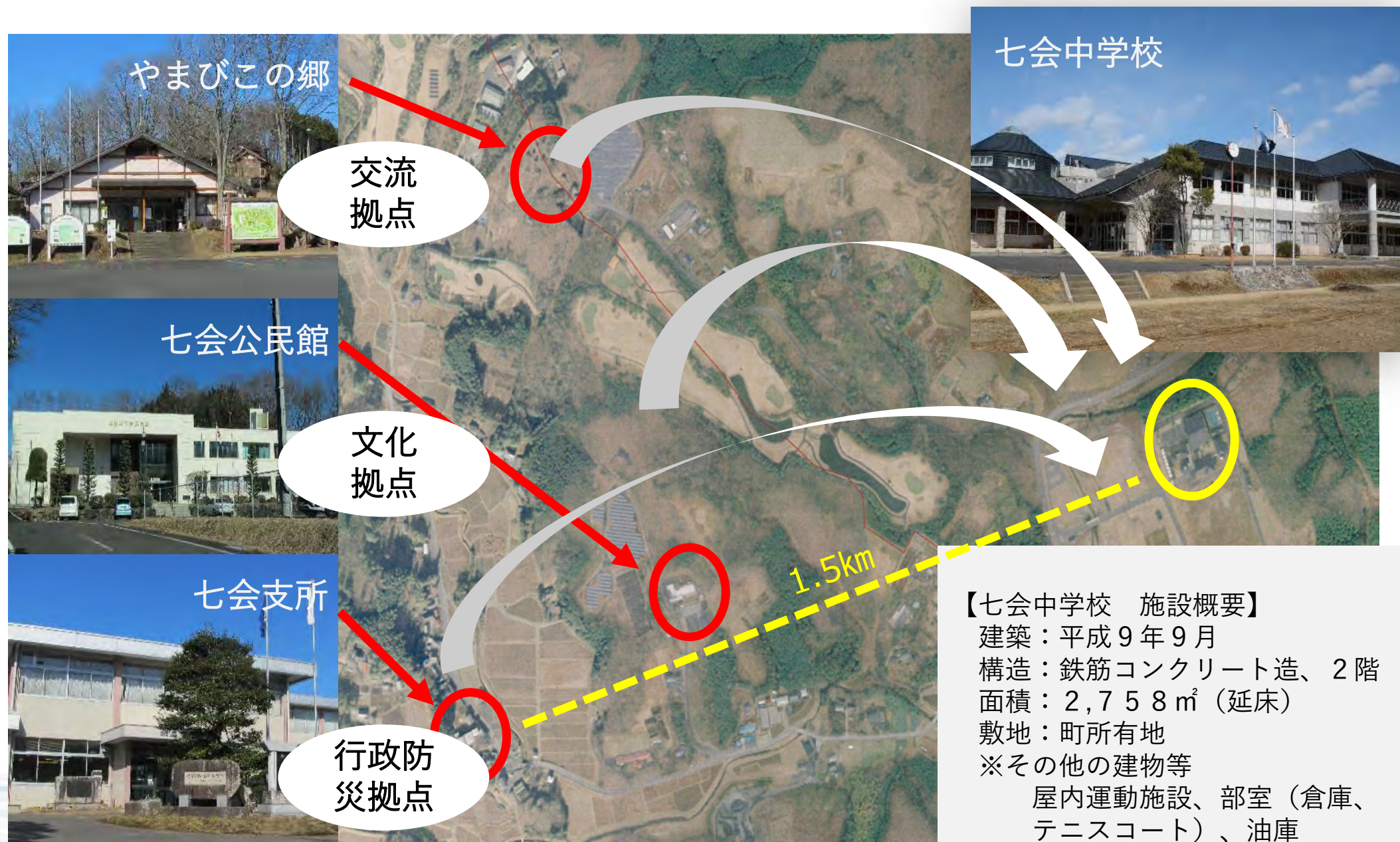
【施設概要】

- ・ 建築年月日 平成 9年 9月
- ・ 廃校年月日 平成27年3月
- ・ 校舎延床面積 2,758m²
- ・ 体育館延床面積 1,641m²
- ・ グラウンド面積 15,720m² ※天然芝サッカースタジアム2面

【整備費】

- | | |
|--------------|--------------|
| ・ 町民センター改修工事 | 101,509,200円 |
| ・ グラウンド整備工事 | 226,044,000円 |
| 計 | 327,553,200円 |

4. 七会中学校跡地周辺の公共施設



5. 七会中学校跡地周辺の公共施設概要

行政防災 拠点



・七会支所

施設概要

建築：昭和43年8月

構造：鉄骨造、2階

面積：927.65㎡（延床）

敷地：町所有地

※平成元年 事務室増築

平成12年 議場増築

文化拠点



・七会公民館

施設概要

建築：昭和51年8月

構造：鉄筋コンクリート造、2階

面積：1326.71㎡（延床）

敷地：一部借地

交流拠点



・やまびこの郷

施設概要（管理棟）

建築：昭和59年2月

構造：木造、1階

面積：165.62㎡（延床）

敷地：借地

※その他の建物等

ケビン16棟、スペースキャビン

6棟、実習加工展示室1棟、

バーベキュー場1棟（11カ所）

テニスコート6面

6. アツマーレ竣工までの経緯

	内 容
平成27年 3 月 8 月	・七会中学校が廃校 ・七会地区住民を対象に跡地利用に関するアンケート実施 ***アンケート結果*** ・配布数600 回収数194 回収率32.3% ・「七会地区の活性化に繋がる施設として、教育、スポーツと文化活動の拠点として町民が集い、交流ができるような機能を備えた施設として、また、災害時の防災拠点として、住民が活用することを望んでいるが、取り壊しや売却は殆んど誰もが望んでいない。」 ・町長から町議会へ構想を説明 ・七会地区住民を対象とした懇談会を実施
平成28年 2 月 3 月 4 月 6 月 7 月	・水戸ホーリーホックから町及び町議会へ跡地利用に関する要望書を提出 ・サポーターを対象とした旧七会中学校の見学会を実施 ・水戸ホーリーホックから町議会へ利用要望を説明 ・町全体の説明会を開催 ・町と水戸ホーリーホックの間に跡地利用に関する協定書を締結 ・城里町七会町民センター（サッカーグラウンド）工事開始 ・城里町七会町民センター（施設）改修工事開始
平成29年 3 月 7 月 12月	・城里町七会町民センターの愛称を「アツマーレ」に決定 ・城里町七会町民センター「アツマーレ」竣工式 ・城里町七会町民センター「アツマーレ」オープン

7. アツマーレ竣工による効果

(1) 地域の経済的効果

- ・水戸ホーリーホックによる町内での消費 拡大
- ・水戸ホーリーホックの来場者（サポーターやイベント関係）による消費拡大
- ・アツマーレへの施設集約による経費の削減効果
- ・メディア等への露出による宣伝効果

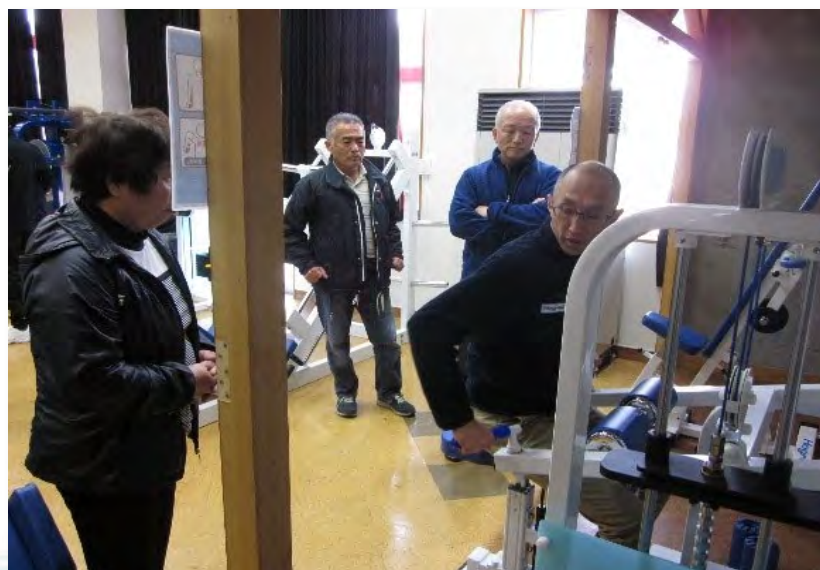
(2) 地域の福利的効果

- ・ホーリーホックによるトレーニングルームでの指導委託（地域住民の健康増進）
- ・グラウンドや体育館の整備（一般利用が可能となり地域住民の利用率が向上）
- ・教育委員会や社会福祉協議会がホーリーホックとの連携事業を実施
（地域の生涯学習教育）



グラウンドは2面あり、A面は町民優先となります。A面B面同時利用の際は、フェンスを設置しての利用となります。

(参考画像左下 A面・中学生の練習試合 B面・水戸ホーリーホックの練習)



8. 成果の要因

Jリーグチーム「水戸ホーリーホック」が
アツマーレで活動しているからこそ
「地域住民の身近なスポーツの場」が実現

【具体的成果要因】

- ① イベントの協力（少年サッカー大会・教室）
- ② トレーニング機器の使い方の指導
- ③ プロの練習試合や公開練習の見学
- ④ プロと同じ場所を使えるプレミアム感
→ スポーツに対する住民の関心を高め、利用を促進